



創立九十周年記念誌発刊に寄せて

校長 菊池 一二三

風雪に耐え凜として佇む松と日本海の巖もつんざく荒波に、在るべき姿を求め続ける能代高校は、今年度、人間社会で言えば卒寿に当たる創立九十周年を迎えることになりました。

大正十四年四月六日に、第一回入学式を新入生九十五名を迎えて以来九十年、今日に至るまでに二万名を超える有為な人材を社会に送り出してきました。同窓生諸氏は能代山本地区のリーダーとして地元を支えるとともに、秋田県や国内外の各界においてすばらしい活躍を果たしております。

本校創立の大正末から九十年の歳月を見ると、その歴史はいろいろな区切りを持って見るができます。戦前の二十年と戦後の七十年、旧制時代と新制時代、昭和と平成などですが、昭和四十九年、校舎移転という大事業に遭遇した私にとっては、樽子山時代の五十年と高埒時代の四十年というのが最もしつくりする見方になってしまっています。

草創期から移転までの五十年間、所謂樽子山時代は、昭和初期の政情不安や経済危機、太平洋戦争や校舎焼失という幾多の困難に遭遇しながらも、本校建学の精神のもとに進むべき方向を見定め、礎を築きながら着実な歩みを進めたのでした。

昭和四十九年十月二十九、三十日、本校の校史を区切る校舎移転が行われました。能代市の中心部から周囲を水田が囲む高埒の地への移転は全校生徒が一丸となって取り組み、見事二日間で完璧に成

し遂げました。あつと言う間に変身を見事成し遂げた感がありました。そしてこの校舎移転は能代高校にとって質的にも大きな転換を意味するものになったのではないかと感じております。

樽子山時代の生徒は生きる力がありました。創造力も豊かでした。言動は粗野な面もありましたが血気盛んな勢いがあつたように感じております。対して、今高埒の地で学んでいる生徒たちを見て一番に感じることは品行方正だということです。昔のような粗暴さは何処にもありません。しかし内に秘めた意志は変わらぬ強さがあり、細やかで研ぎ澄まされた感性を備えております。進学率は格段に飛躍しており、県内においても確固たる位置を占めるまでになっております。このことは本校の教育力の向上とともに生徒の弛まぬ努力の賜であることは言うまでもありません。部活動においても幅広く成果を上げております。ここでは述べる紙面がありませんので、年表及び活動の軌跡をご覧いただきたいと思ひます。

校訓「至誠力行」を説明するとき、武藤健三郎初代校長の「至誠にして動かざるものはなく鬼神をも感動せしむるは至誠である。諸子は再読三読此数語に含まる無限の教訓を自ら求めて力行せられればそれでよい、」という言葉をよく耳にしますが、氏はこの言葉の前に「至誠に示された事一見平凡であるかも知れぬがそれでよい、偉い人とか清い明るい人とかいふのも平凡を積んで実行した人に外ならぬ。現代は平凡な事を確実に一步一步実行し得る人を要求している」と述べております。これを読むと創立当時も今の時代も求められる人物像は変わりないのではないかと感じられます。能代高校は九十年を一つの区切りとし、生徒教職員一同が改めて校訓の言わんとする理想を追求して人間形成に努め、百周年に向けて新たな歩みを進めて参る所存でおります。

結びとなりましたが、この記念誌の発行に当たり、貴重な資料や玉稿をお寄せいただきました皆様
に心より感謝申し上げますとともに、本校に対する思いをしっかりと受け止め、一層の発展と飛躍をお
誓いして「松陵九十年」発刊の挨拶といたします。